

タイにおける低炭素排出型エネルギー技術戦略シナリオ研究

実施機関：京都大学（研究代表者：石原 慶一）

実施期間：平成 21～23 年度

プロジェクトの概要

タイ国において低炭素排出型のエネルギーシナリオを策定するために、京都大学に事務局を有する Japan-SEE Forum が Thai-SEE Forum のカウンターパートとなり、国際共同研究を推進する。特に本研究ではそれぞれの技術についてばらばらに共同研究を行うのではなく、エネルギー需給シナリオ策定研究を統括的に実施しつつ、タイ国における重点課題に対して文科研究グループネットワークオブエクセレンス（NOE）を構築し、それぞれが有機的な連携を図りながら共同研究を実施する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	成果	計画・手法の妥当性	実施期間終了後における取組の継続性・発展性
A	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

本プロジェクトでは、石炭利用、バイオマス利用、太陽電池利用等の要素技術の開発を行い、得られた成果に基づく各技術の将来見通しを基盤として、土地利用の最適化と温室効果ガス排出見通しに関する総合評価を実施するとともに、現地のエネルギー政策に関する見通しを考慮して 2030 年までのエネルギーシナリオを作成した。得られたシナリオの一部がタイ政府のエネルギー計画に取り入れられたことは評価できる。今後、タイのみならず、アセアン諸国にも広く成果が波及することを期待する。

- ・**目標達成度**：タイ政府機関や民間企業との連携も構築されており、環境、工学、農学等、多方面にわたるデータに基づく低炭素排出型エネルギーシナリオを策定し、TGO（タイ温室効果ガス排出制御委員会）を通じて、今回策定したシナリオをタイ政府に提案するなどの取組みが実施されており、所期の目標を達成したと評価できる。

- ・**成果**：イコールパートナーシップに基づき、海外機関と十分連携のとれた共同研究がなされ、バイオ燃料研究など先進的技術の改良・普及に関する成果が得られていることは評価できる。また、多数の論文を発表していることから、研究成果の発信も十分であると評価できる。

- ・**計画・手法の妥当性**：エネルギー需給シナリオ研究を中心にして、多様な要素技術開発を統括する研究手法は評価できる。また、課題実施のためのプロジェクトマネジメントも適切になされており、計画・手法は妥当であると評価できる。今後、要素技術開発とシナリオ策定の内容面での関係性を明確にして推進することを期待する。

- ・**実施期間終了後における取組の継続性・発展性**：SEE フォーラムを中心とした連携ネットワ

ークやアセアン大学ネットワーク（AUN）と交流協定を結ぶなど、国際連携ネットワークを着実に構築しつつ、社会実装を目指して展開していることから、継続性・発展性は評価できる。また、国際連携による人材育成にも力を注いでおり、JICA が支援する AUN/SEED-Net 事業のエネルギー工学分野の代表幹事校に京大が推薦されるなどの成果が得られていることも評価できる。